

このような事業に取り組むことができました

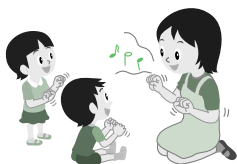
市が平成30年度に実施した事業の一部を紹介します(括弧内は紹介内容を含む事業名とその決算額)。

■中央林間駅前に公共施設がオープン (図書館管理運営事業 5億2,299万円、ほか関連2事業1億6,186万円)

中央林間東急スクエア内に、中央林間図書館、子育て支援施設、中央林間分室がオープン。飲み物の持ち込みや会話もできる図書館は、年間87万人を超える人が訪れています。

■民間保育所の新設などを支援 (民間保育所建設・増設支援事業 3億640万円)

民間保育所など10施設の新設などの支援や、既存施設の定員増により入所定員を470人分拡大。今年4月1日時点で4年連続「待機児童数ゼロ」を達成しました。



■やまと防災パークがオープン (仮称)大和園場跡公園整備事業 2億9,257万円)



南林間の大和園場跡地にやまと防災パークがオープンしました。複合遊具やボール遊びエリア、広い芝生広場などを整備し、地下の雨水調整池や、大型防災備蓄倉庫(整備中)も設置。スタンドパイプ消火資機材(整備中)を多数備えるなど、さまざまな防災機能が皆さんの安全を支えます。

■市民交流拠点ポラリスがオープン (中央林間駅周辺まちづくり事業 16億1,185万円、ほか関連2事業3億14万円)

学習センター機能に加え、屋内球技などができるアリーナ、乳幼児を主な対象としたプレイルームなど子育て支援施設としての機能も持った「市民交流拠点ポラリス」がオープンしました。市民の集いの場としてにぎわっています。



■録音機能付き電話機などの購入費を補助 (地域防犯活動推進事業 2,288万円)

振り込め詐欺防止のため、70歳以上を対象に、自動録音機能付き電話機などの購入費として1万円を上限に補助するなど、防犯対策に取り組みました。

■特別支援教育センター「アンダンテ」を整備 (林間学習センター改修事業 6,754万円)

旧林間学習センター施設に特別支援教育に関する専門性の高い機能を持つ大和市特別支援教育センター「アンダンテ」が開所。就学前から中学卒業まで切れ目のない支援を実施します。

■認知症予防施策などを充実 (一般介護予防事業 4,306万円)

認知機能低下の早期発見と予防のため、タブレット端末を使った認知機能検査と体力測定、保健指導を組み合わせた「脳とからだの健康チェック」や頭と体を同時に使う「コグニサイズ」の教室などを実施しました。

■中3を対象に夏休み・冬休みに 寺子屋やまとを実施 (学力向上対策推進事業 1億3,779万円)

夏休み・冬休み期間中に、中学3年生を対象に入試対策を含めた学習支援を新たに実施。このほか、全市立小・中学校で放課後に児童・生徒が宿題などに取り組む「放課後寺子屋やまと」を継続して実施しました。



■ブロック塀等の撤去費用などを補助 (建築物の耐震化等促進事業 3,531万円)

地震による被害を軽減するため、耐震化などの取り組みを支援しました。新たな補助として、道路に面したブロック塀等の適法性・安全性を診断。安全性が確認できないブロック塀等の撤去費用と、撤去に併せてフェンス等に改善する工事費用を補助しました。

■小・中学生の安全対策を強化 (小学校大規模改修事業 3億5,888万円、ほか関連2事業3億1,741万円)

児童・生徒の安全を確保するため、市立小・中学校の防犯カメラ増設など施設整備を実施。また、市立小学校の全児童が携帯できるよう、防犯ブザーを購入しました。

